



● 問い合わせ先 教育政策課 人権・同和教育担当

人、つどい来て…

そのだ ひさこ

4月29日、長いゴールデンウィークのほぼ始まりのころ、私の絵本『いのちの花』英語版の自費出版祝いをしていただいた。筑紫野、太宰府、小郡、直方、宗像、みやま、飯塚、福岡市など様々に人権・同和教育や啓発など踏ん張っている各地の実行委員有志によって、準備がなされ当日を迎えた。場所は梁(はり)や天井に140年余のゆかしい時が刻まれた「博多の老舗の酒蔵」だった。16年前の日本語版出版には困難が多々あり、一冊絵本を出すのに10年の歳月がかかったが、友人の僧侶たちが催してくれた。このささやかな出版祝いも偶然この酒蔵だったことは何か感慨深いものがあった。

五人衆の事実と伝承を元にして。江戸時代・1800年に「むら」を救うために無実の罪で処刑された五人の若者の墓を人々は、129年の時を耐えて1929年に建立した。次に175周年の法要時には削られた墓石の文字・「衆」の字を刻んだ石版を追加し、200年の法要も行われた。さらに、一昨年・2016年10月31日(五人の若者の命日とされている日)に「いわれ」のすべてを白字で刻んだ石版が墓石の横にドンと据えられた。墓石管理員会の手によってである。じいさまもばあさまも、父さんも母さんも、子どもも孫も、五人衆の墓に自然に何気なく、すうくと立ち寄りお参りしている。その姿に数百年を経て、死者の命“が何気なく、深くくつながっていることがじわじわと迫ってくる。墓地で、いのちを感じてしまう「むら」。だから、絵本のタイトルは『いのちの花』と

した。会場には当日1000人を越す人がつどい来て、大変ありがたかった。原画の映像のオカリナ伴奏・朗読劇を皮切りに、最長老の林力先生のすばらしいスピーチ、英語訳者のイアンさんのお話をはじめ、さまざまな方の語りあり、「博多にわか」あり、歌あり…。各地から集まってくださった方々との交流ができた、楽しかったという声をたくさん頂いた。

私の絵本の祝いなど、本当は身近なお店で十分なのだが、何よりも、殺され、焼かれ大量の逮捕・有罪判決などの受難を生きぬいてきたこの「むら」の“鎮魂”が私にとっての内なるテーマだった。

そして、後を絶たない、いじめ、虐待、殺し：“命”の価値など地に墜ち果てたかのような今の社会の中で、私が感じさせてもらったかけがえない命のつながりと大切さをこそ、皆さんに伝えたい。

(被差別部落)の「寛政義民松原

本のタイトルは『いのちの花』と

した。

お盆のごみ収集
クリーンヒル宝満
し尿・浄化槽汚泥収集
の休み



- ごみ収集の休み
8月13日(月)夜の持ち出しから8月15日(水)夜の持ち出しまで
- クリーンヒル宝満の休み
8月13日(月)～8月15日(水)
- し尿・浄化槽汚泥収集の休み
▽両筑商事 8月11日(土)～8月16日(木)
▽公衛社、筑紫衛生社、筑紫野市浄化槽センター
8月11日(土)～8月15日(水)
- 問い合わせ先 環境課